



決め手は、青森県産。



りんご生産情報第3号
(5月11日～5月19日)

令和5年5月10日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

「ふじの落花10日後頃」の薬剤散布は5月15～16日頃！
腐らん病は見つけ次第、適切な処置を!!
実止まり確認後、すみやかに摘果を進める!!!

I 概要

ふじの落花日は、黒石（りんご研究所）で平年より11日早い5月5日、五戸（県南果樹部）で平年より12日早い5月7日であった。

「ふじの落花10日後頃」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で5月15～16日頃に実施する。黒星病、黒点病などの重点防除時期なので、基準散布量を守り、10日間隔で降雨前の散布を徹底する。

腐らん病の発生が多く見られている。枝腐らんは、5～6月以降も発病してくるので、見つけ次第切り取り、胴腐らんは、再発病斑を含め、適切に処置を行う。

結実の状況を確認した上で、品種別の標準的な着果程度を目安に、すみやかに摘果を進める。

報道機関用提供資料	
担当課	農林水産部りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 小笠原 宜弘
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5092
報道監	農林水産部 次長（農商工連携推進監）成田 澄人 内線 4966

II りんご生産情報

1 生育、作業の進み、病害虫の動き

(1) 生育ステージ

ふじの満開日は、黒石（りんご研究所）で平年より11日早い5月1日、五戸（県南果樹部）で平年より12日早い5月1日であった。

ふじの落花日は、黒石で平年より11日早い5月5日、五戸で平年より12日早い5月7日であった。

○満開日

(月.日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	5. 2	4.30	4.29	5. 1
	平 年	5.12	5.11	5.11	5.12
	前 年	5. 6	5. 5	5. 4	5. 6
五 戸 (県南果樹部)	本 年	5. 2	5. 1	4.29	5. 1
	平 年	5.14	5.13	5.11	5.13
	前 年	5. 6	5. 4	5. 2	5. 5
青森市浪岡 (東青地域県民局)	本 年	5. 2	-	4.28	5. 2
	平 年	5.13	-	5.11	5.13
	前 年	5. 7	-	5. 4	5. 7
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	4.30	4.29	4.25	4.30
	平 年	5.11	5.10	5. 9	5.12
	前 年	5. 5	5. 5	5. 4	5. 6
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	5. 1	-	-	5. 2
	平 年	5.12	-	-	5.13
	前 年	5. 5	-	-	5. 7
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	4.29	4.28	-	4.28
	平 年	5.10	5.10	-	5.10
	前 年	5. 5	5. 4	-	5. 5

注1) 満開日：頂芽花の70～80%開花したとき

2) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

○落花日

(月.日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	5. 8	5. 5	5. 4	5. 5
	平 年	5.17	5.16	5.15	5.16
	前 年	5.10	5. 8	5. 7	5. 9
五 戸 (県南果樹部)	本 年	5. 9	5.10	5. 4	5. 7
	平 年	5.19	5.19	5.17	5.19
	前 年	5.11	5.11	5. 8	5.11
青森市浪岡 (東青地域県民局)	本 年	5. 9	-	5. 3	5. 8
	平 年	5.19	-	5.16	5.18
	前 年	5.11	-	5.10	5.11
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	5. 6	5. 4	4.30	5. 6
	平 年	5.17	5.16	5.14	5.17
	前 年	5. 8	5. 8	5. 7	5. 9
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	5. 7	-	-	5. 9
	平 年	5.17	-	-	5.18
	前 年	5.12	-	-	5.13
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	5. 5	5. 3	-	5. 4
	平 年	5.16	5.16	-	5.15
	前 年	5.10	5. 9	-	5.10

注) 落花日：頂芽花の70～80%落花したとき

(2) 作業等の進み (5月8日現在)

「ふじの開花直前」の薬剤散布は、4月21日頃から4月27日頃にかけて行われた。「ふじの落花直後」の薬剤散布は、5月2日頃から5月5日頃にかけて行われた。

(3) 病害虫の動き

(5月8日現在 りんご研究所)

黒星病	子のう胞子及び分生子の飛散継続中 感染危険度は農なび青森に掲載中 (https://www.nounavi-aomori.jp) 葉の病斑初発 (本年: 5月3日、平年: 5月13日)
腐らん病	病斑の伸展、胞子の飛散ともに継続中
うどんこ病	分生子の飛散継続中
モニリア病	まもなく実腐れがみられる (平年: 5月22日)
ミダレカクモンハマキ	越冬卵からのふ化ほぼ終了、幼虫が葉を加害中 (ふ化終息 平年: 5月13日)
リンゴハダニ	越冬卵からのふ化継続中 (ふ化初発 本年: 4月26日、平年: 5月1日)
クワコナカイガラムシ	まもなく越冬世代幼虫が移動開始 (移動初発 平年: 5月20日)
ナシヒメシンクイ	越冬世代成虫の羽化継続中

2 作業の重点

(1) 「ふじの落花10日後頃」の薬剤散布

「ふじの落花10日後頃」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で5月15～16日頃に実施する。地域や天候によっては散布時期が異なるので、気象情報を参考にする。また、黒星病、黒点病などの重点防除時期なので、基準散布量を守り、10日間隔で降雨前の散布を徹底する。

「ふじの落花10日後頃」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石	5月15～16日頃	炭酸カルシウム水和剤	3500
弘前		ユニックス顆粒水和剤47	
三戸		チウラム剤	
		〔チオノックフロアブル〕 〔トレノックスフロアブル〕 又はマンゼブ剤 〔ジマンダイセン水和剤〕 〔ペンコゼブ水和剤〕	

ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、有効な薬剤も使用する。

(2) 腐らん病対策

本年も発生が多く見られている。

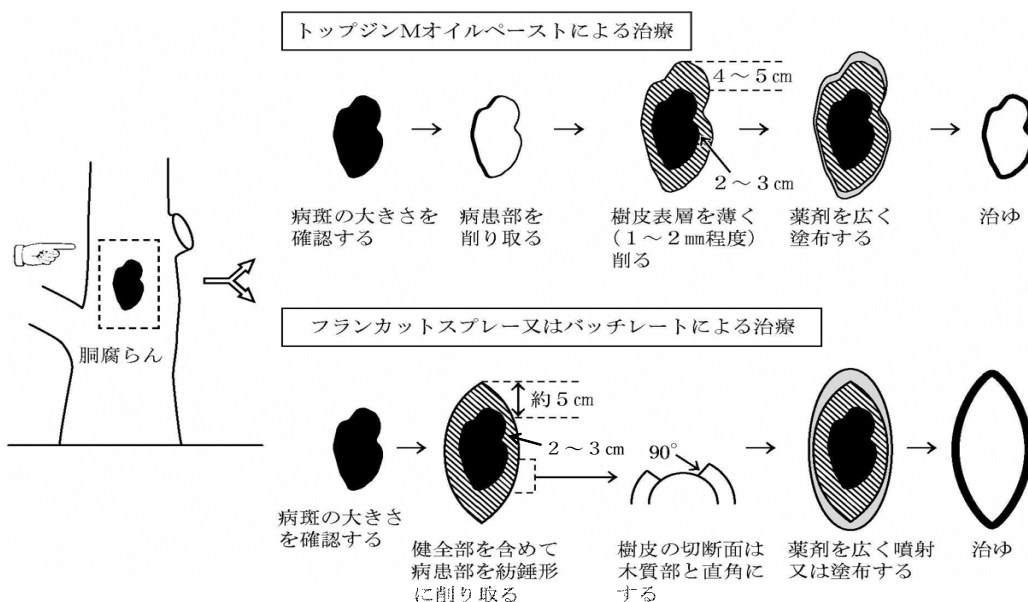
枝腐らんは、5～6月以降も発病してくるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

胴腐らんは、処置が不十分であったり、誤った処置が行われている園地もみられるので、再発病斑を含め、次のいずれかの方法で適切に処置を行う。

ア トップジンMオイルペースト、フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を、病斑部よりも5～6cm広めに、3～5cmの厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのまましておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

ウ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。



削り取り法による胴腐らん治療の作業手順

(3) 黒星病対策

「ふじの落花20日後頃」までは、降雨に伴い子のう胞子が多く飛散するので、薬剤散布は10日間隔を遵守し、散布むらができないように基準量を丁寧に散布する。散布予定日に降雨が見込まれる場合は、事前散布に徹する。

被害葉・被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(4) 輪紋病対策

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(5) うどんこ病対策

伝染源の密度を下げるため、白い粉に覆われた被害花そう・葉そうは、見つけ次第、枝ごと摘み取り、適切に処分する。

(6) モニリア病対策

葉腐れ、花腐れ、実腐れ、株腐れは、園内を見回り、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(7) 交信攪乱剤の設置

交信攪乱剤コンフューザーRは、5月中旬に取り付ける。広い面積で処理するほど効果が高いので、できるだけ地域ぐるみで取り組む。

(8) 摘果

実止まりが確認できない時期（落花10～15日後頃）は一つ成り摘果を行い、実止まりや果実形質の良し悪しが判別できるようになった時点から仕上げ摘果を行う。つがるなど早期落果の多い品種では、落花10日後頃までに一つ成り摘果を終える。

結実の状況を確認した上で、品種別の標準的な着果程度を目安に、仕上げ摘果を行う。さびなどの障害がない果実を見極め、ふじでは落花25日後頃までに終えるようにする。

霜害があった園地で摘果を行う際は、被害がごく軽微（果柄の傷など）であれば側果ではなく中心果を残す。不受精花（カラムツ）により、標準着果量が中心果で確保できない場合は、側果を活用する。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3頂芽に1果
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝	4頂芽に1果
北斗	4.5頂芽に1果
陸奥・世界一	5頂芽に1果

結実量が多く摘果が遅れそうな園地では、積極的に摘果剤を使用する。展着剤を加用したミクロデナポン水和剤85の1,200倍を使用し、果実に薬液が十

分かかるように、10 a 当たり350～500lを散布する。

ふじ、王林、早生ふじ、トキ、シナノスイートでは「満開後2週間頃」（ふじでは中心果の横径10mm位の時に散布）、紅玉では「満開後3週間頃」（紅玉では中心果の横径16mm位の時に散布）の1回散布とする。

つがる、ジョナゴールド、世界一、千雪など早期落果の多い品種やぐんま名月など落ちすぎる品種にはかからないように注意する。

本剤散布による落果は、散布10日後頃から始まり、以後10～14日間継続する。ただし、天候の影響によっては効果の発現が遅れたり、不十分な場合もあるので仕上げ摘果は遅れないようにする。

(9) ふじ・早生ふじのつる割れ軽減対策（ヒオモン水溶剤の利用方法）

本年は開花が早いので、つる割れの発生が懸念される。例年、発生が多い園地では、ヒオモン水溶剤3,000倍を満開20～30日後に散布することで発生を軽減できる。使用に当たっては次のことに留意する。

ア 単用散布とする。

イ 散布後に葉がしおれる症状を示すが、1週間後頃にはほぼ回復する。

ウ 高温・乾燥時の散布は避ける。新梢先端葉及び樹冠内の果そう葉の黄変落葉や頂芽の欠落が発生した事例がある。

エ 極端に樹勢の弱い樹への散布はさける。

オ 果実肥大が抑制される場合がある。

カ 新梢の二次伸長を助長する場合がある。

キ 摘果剤（ミクロデナポン水和剤85）を散布した後に本剤を使用した場合、摘果剤の効果が抑制される。

(10) 乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20l程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(11) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、葉面散布用の硫酸マグネシウムを1～2回散布する。散布間隔は7～10日あける。

苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水1000当たり使用量（倍数）	
		5月末まで	6月以降
グリーントップ	16%	1,500 g（67倍）	2,000 g（50倍）
グリーントップ70	23%	1,000 g（100倍）	1,400 g（71倍）

(12) 凍霜害防止対策

気象情報に十分に注意し、降霜の恐れがある場合は、防霜ファンや燃焼法による防止対策を必ず行う。

3 一般作業

(1) 草刈り (2) ひこばえ、徒長枝の切り取り (3) スコアリング

4 今後の作業予定（5月20日～6月2日）

(1) 薬剤散布 (2) 摘果 (3) つる割れ軽減対策 (4) モニリア病対策
 (5) 腐らん病対策 (6) 輪紋病対策 (7) クワコナカイガラムシ対策
 (8) ビターピット対策

《 りんご黒星病の予想感染危険日 》

りんご黒星病の予想感染危険日をりんご黒星病防除情報等配信サービスでお知らせしているほか、感染危険度を農なび青森 (<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に掲載しています。

予想感染危険日は、天気予報から予想した黒星病が感染する危険性が高い日のことです。感染危険日に散布を予定している場合は、気象情報に注意し、降雨前散布を徹底しましょう。

また、感染危険度は過去の気温と湿度のデータから、黒星病の感染の危険性の高さを示しています。

<りんご黒星病防除情報等配信サービス>

配信を希望する方はりんご果樹課のメールアドレス (ringo@pref.aomori.lg.jp)宛てに下記を記載の上、お申し込みください。

メールの件名：配信サービス希望

本文：お住まいの市町村、職業

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡

先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

—— 《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》 ——

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

—— 《 春の農作業安全運動展開中！（4～5月） 》 ——

春の農繁期を迎えるに当たり、農業機械等による事故を防止するため、県では、「春の農作業安全運動」を展開しています。

農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声かけ！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

次回の発行は令和5年5月19日（金）の予定です。